

景気ウォッチャー調査・近畿地域結果(平成23年9月)

～2度の台風と円高による悪影響で、現状判断の低下が続く～

- 景気ウォッチャー調査・9月調査の近畿地域の結果（現状判断[方向性]）は、2ヶ月連続の低下となった一方、先行き判断は3ヶ月ぶりの上昇となった。全国の結果は、現状、先行きともに前月よりも低下している。
- 現状判断については、2度の台風によって直接的な被害が出たほか、消費者の動きに幅広く影響が出たことで、かなり多くの業種で来客数の減少などにつながっている。また、円高・株安の動きが消費マインドの低下につながったほか、地上デジタル放送への完全移行によるテレビの売上減などで、全体としては悪化する形となっている。
- 特に台風による影響については、直接的な被害を免れた観光施設も風評被害で予約のキャンセルが相次いでいるほか、百貨店やスーパー、レストランをはじめ、多くの小売店で客足の鈍化につながっている。
- 一方、先行きについては、今冬の節電にそなえた温感商材の好調に期待が集まっている。その一方、円高の長期化や復興財源としての増税懸念などが台頭、DIは前月比でプラスとなったものの、全体として不透明感が高まる形となっている。

◎「台風」関連の特徴的なコメント(現状判断のみ)

やや良い	百貨店（売場主任）	・台風の影響で売上が大きく落ち込んだが、それ以降は気温が下がり、婦人衣料を中心に販売量が増えている。消費者の我慢が一気に噴き出した感がある。
	百貨店（企画担当）	・今月は2回の台風という悪天候に見舞われたが、気温は前年よりも低く、来客数も前年を上回ったため、秋物商材の動きが良くなっている。
	都市型ホテル（客室担当）	・今月は2度の台風でキャンセルも発生したが、3連休が2回あったため、前年よりも売上は伸びている。
変わらない	スーパー（経理担当）	・東日本大震災後、売上は比較的堅調に推移していたが、8、9月は停滞気味となっている。台風などの影響もあり、消費が減少し始めている。
	コンビニ（店員）	・今月は2度の台風などで消費者の外出機会が減ったため、売上が前年比で約10%減少している。
	高級レストラン（スタッフ）	・今月前半は予約も多く活気があったが、相次ぐ台風の影響により、後半は予約キャンセルなどで客が激減している。
	観光型ホテル（経営者）	・今月は2度の3連休があった一方、2度の台風の影響に見舞われたため、予想よりも若干厳しい結果となっている。
やや悪くなっている	観光型旅館（経営者）	・少し良くなりかけたところに、台風が上陸する形となった。当地域に被害はなかったが、和歌山全体が風評被害を受けている。
	百貨店（販促担当）	・天候不順が衣料品の動きに影響を及ぼしているほか、度重なる台風も来客数の減少につながっている。社会の雰囲気もどこか落ち着かず、客の購買行動を鈍らせている。
	百貨店（婦人服）	・気温の低下は追い風であるが、2度の台風の影響が余りにも大きく、そのマイナスを取り返せないままである。また、円高による将来不安で、消費が活発化しにくくなっている。
	スーパー（店長）	・来客数はほぼ前年並みであるが、台風などの気候条件が悪く、前年に売れたたばこやテレビも苦戦したことで、客単価の低下が進んでいる。
	その他専門店〔医薬品〕（経営者）	・台風や天候不順の影響もあり、来客数が大幅に減っているほか、客単価も低下したため、売上に大きく響いている。
悪い	観光型旅館（経営者）	・紀伊半島の南部は台風による大きな災害を受け、いまだに復旧のめどが立たない地域もあるが、釣りなどのアウトドア客や温浴施設利用者の様子は普段と大きく変わらず、温浴施設客の客単価も3か月前とほぼ同じ水準となっている。ただし、道路網の寸断による風評被害などで、客足はかなり減少している。
	観光型旅館（団体役員）	・台風の影響で和歌山県全域の交通が寸断され、閉鎖するホテルや旅館も出ている。幸い当地域の温泉には大きな被害はなかったが、風評被害でキャンセルが続出している。

